	工業高等	専門学校	開講年度 令和04年度 (2	2022年度)	授業科目			
科目基礎		131 33 120	1,5513 1,52 15120 1,52		***************************************			
科目番号		0079		科目区分	一般 / 選択			
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位:			
開設学科		電気情報	员工学科	対象学年	4			
開設期		後期		週時間数	2	2		
教科書/教	材	i	授業時に配布する。					
担当教員	<u> </u>	藤本 晃						
・ある命題・誤った論	『の接続構造 の主張内容 証についる	学を適切に読)接続関係を適切に把握しながら文章を もみ取ることができる。 ともに指摘できる。	読むことができる。				
ルーブリ	リック							
			理想的な到達レベルの目安 標準的な到達レベ 接続詞や指示語などを適切に把握 し、文章の論理構造を正しく理解 した上で、読むことができる。		を適切に把握	未到達レベルの目安 接続詞や指示語などを適切に把握 しながら文章を読むことができな い。		
			ある命題の主張内容を適切に読み 取るとともに、文章の論理構造を 意識しながら書くことができる。	ある命題の主張内容 取ることができる。	を適切に読み	ある命題の主張内容を適切に読み 取ることができない。		
			誤った論証について、理由ととも に指摘し、よりよい論証に修正す ることができる。	誤った論証について に指摘できる。	、理由ととも	誤った論証について、理由ととも に指摘できない。		
		員目との関	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
JABEE a	到達度目標	景 A-Z						
教育方法	等	F-A		BDTW 4 TO 1111	E-A rm · ·			
概要		0	を言葉と言葉の関連づけと捉え、その					
授業の進め	方・方法	加えて、・授業	いた上で課題を解き提出する。成績の 以下の自学自習を60時間以上行うこと 内容の理解を深めるため、復習を行う 試験の準備を行う。	ことする。	小テストと授業	(中の取り組みを加味して行う。		
注意点		_	かの力で問題を解くこと。また、きちん	と正解の確認を行い、	よく理解できた	い場合は質問すること。		
		<u> 多上の区分</u>	I	_ *!=\!\!\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				
□ アクテ	ィブラーニ	ンク	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
授業計画	Į							
		週	授業内容		どの到達目標			
		1週	ガイダンス 「論理」について	授 授 授 第	授業の目標と概要を把握する。 授業における「論理」の意味を理解する。			
	3rdQ	2週	根拠と導出①		根拠と導出の違いを理解し、関連する問題を解くことができる。			
		3週	根拠と導出②		根拠と結論について理解し、関連する問題を解くこと ができる。			
		4週	帰納と演繹①		帰納と演繹の違いを理解し、関連する問題を解くこと ができる。			
		5週						
		-/-	帰納と演繹②			を理解し、関連する問題を解くこと		
		6週	帰納と演繹② 推測・価値評価①]な帰納と演繹 [:] ごきる。			
				がで 適じ がで 誤っ]な帰納と演繹 <u>できる。</u>]な推測につい できる。	を理解し、関連する問題を解くこと		
		6週	推測・価値評価①	がて 適は がて 誤こ がて 中間	「な帰納と演繹」できる。 「な推測につい できる。 」た推論につい できる。	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと		
後期		6週	推測·価値評価① 推測·価値評価②	がて 適は がて 誤っ がて 中間 とた	な帰納と演繹 できる。 のな推測についできる。 のた推論についできる。 引試験までの内にできる。	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと		
後期		6週 7週 8週	推測·価値評価① 推測·価値評価② 中間試験	がて 適は がて 誤って 中間 とた 三月 でき	のな帰納と演繹できる。 のな推測についできる。 のた推論についできる。 のた推論についできる。 引試験までの内ができる。 設論法の基本を できる。	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこ		
後期		6週 7週 8週 9週	推測・価値評価① 推測・価値評価② 中間試験 三段論法1①	がで 適けて いて 中間 と こ で で も と こ で る で る で る で る で る こ る こ る こ る こ る こ	のは帰納と演繹できる。 のな推測についできる。 のた推論についできる。 のた推論についできる。 のはいます。 のはいます。 のはいます。 のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、のは、の	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこと 四解し、関連する問題を解くことが		
後期		6週 7週 8週 9週 10週	推測・価値評価① 推測・価値評価② 中間試験 三段論法1① 三段論法1②	がで して で は で で に で で た た で こ で で た て こ で る た く る く る く る く る く る く る く る く る く る	のは帰納と演繹できる。 のな推測についできる。 のた推論についできる。 のた推論についできる。 のにまる。 のはいきる。	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこと 四解し、関連する問題を解くことが ついて理解し、関連する問題を解く		
後期	4thQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週	推測・価値評価① 推測・価値評価② 中間試験 三段論法1① 三段論法1② 否定、連言・選言	がでいて、 適がでいて、 にでいて、 中と、 三で、 適こ、 否く、 全こ、 命問是	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くことが ついて理解し、関連する問題を解く こついて理解し、関連する問題を解 ついて理解し、関連する問題を解 ついて理解し、関連する問題を解 の関係について理解し、関連する できる。		
後期	4thQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	推測・価値評価① 推測・価値評価② 中間試験 三段論法1① 三段論法1② 否定、連言・選言 全称文と存在文	がでいて、では、では、では、でいて、このでは、できない。 でいっこう でいっこう でいっこう でいっこう でいっこう でいっこう でいっこう かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かい	は は は は は は は は は は は は は は	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと で理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこと 四解し、関連する問題を解くことが ついて理解し、関連する問題を解く こついて理解し、関連する問題を解 ついて理解し、関連する問題を解 のいて理解し、関連する問題を解 のいて理解し、関連する問題を解 のいて理解し、関連する問題を解 のいて理解し、関連する問題を解 のいて理解し、関連する問題を解 の関係について理解し、関連する できる。 ・対偶に言い換えることができ、そ は文章の関係を把握することができ		
後期	4thQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	推測・価値評価① 推測・価値評価② 中間試験 三段論法1① 三段論法1② 否定、連言・選言 全称文と存在文 逆・裏・対偶①	が 適が 誤が 中と 三で 適こ 否く 全こ 命間 あれる 複こ かく 是足 るる。 染と	は は で は で で で で で で で で で で で で で で で で	を理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと て理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くこと 容を理解し、関連する問題を解くことが ついて理解し、関連する問題を解く こついて理解し、関連する問題を解 ついて理解し、関連する問題を解 ついて理解し、関連する問題を解 こついて理解し、関連する問題を解 こいて理解し、関連する問題を解 こいて理解し、関連する問題を解 こいで理解し、関連する問題を解 こいできる。		

モデルコア	プカリキュ	ラムの学習	習内容と到達					
分類 分野		分野	学習内容	学習内容の到達目標	Ē.		到達レベル	授業週
				論理的な文章(論説 きる。	や評論)の構成や展開を的確にとらえ	、要約で	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3		
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3		
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。		3		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。		3		
基礎的能力	人文・社会 科学	国語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 情報を収集できる。		3		
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		3		
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。		3		
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 頭発表することができる。		3		
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。		3		
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。		3		
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理 するための手法を実践できる。		3		
評価割合								
試験			試験		小テスト・提出物	合計	†	
総合評価割合 80			30		20	100		
基礎的能力 80			30		20 100			
専門的能力 0)		0	0		
分野横断的能力			0		0	0		